

将来を見据えた職業教育・就労支援の在り方

秋田県立能代支援学校 教諭 由利 和也

Ⅰ 実践に当たって

1 自校の概要

本校は世界自然遺産「白神山地」の南麓エリアに位置する秋田県能代市にあり、主に知的障害を対象にした、創立29年目となる特別支援学校である。小学部、中学部、高等部が設置されており、近年の在籍児童生徒数は80人台から90人台で推移している。児童生徒の居住地は複数の自治体に広がっており、通学範囲が広く、中学部や高等部には寄宿舎を利用する生徒もいる。

2 教育課程の特徴

発達障害や肢体不自由のある児童生徒も在籍しており、多様な実態に応じた指導の充実が必要である。自立と社会参加に向けた社会に開かれた教育課程として、「しらかみの恵みを生かした学習活動」の名称で、地域の「人・もの・場所」などの地域資源を活用し、直接的・間接的に地域に貢献する活動や地域を知る学習活動を展開してきた。

3 進路状況

各学部卒業後の進路実現に向けた学習活動や進路相談の充実を図ってきたことにより、高等部卒業時の進路決定率及び就職希望者（全体の4割程度）の就職率は高く維持されている。進路希望先が障害福祉サービス事業所の生徒（全体の6割程度）には、生活や日中活動に結び付く、より体験的な学習活動を工夫してきた。一方で、就職した卒業生を見ると、年数が経過する中で、離職率が2割程度となっており、県全体の平均に比較すると低い数値ではあるが、移行期から中・長期にかけた職場への定着は課題である。

4 実践に際して

卒業生の職場定着や生活の安定につながる要因はさまざまであるが、将来に向けた在学中の職業教育は重要な要素であるにとらえ一層の充実を図りたい。また、社会生活への円滑な移行と、その後の豊かな生活の実現に向け、地域や関係機関と連携した就労支援と定着支援の強化を図りたい。

Ⅱ 実践内容

1 学校の教育活動全体を通じて実施する体系的なキャリア教育の推進

(1) キャリア教育全体計画の見直し

キャリア教育全体計画を整理し直し、キャリア教育の視点による小学部から高等部まで系統性のある教育課程の編成に取り組んだ。体系的なキャリア教育を進めるに当たり、本校の特色の一つである「しらかみの恵みを生かした学習活動」を計画の中に位置付け職員の共通理解を図った。

(2) 「しらかみの恵みを生かした学習活動」

「地域で学ぶ」「実践的に学ぶ」という考えの下、「しらかみの恵みを生かした学習活動」の名称で実践を積み重ねてきた。ライフキャリアを大切にしながら、年齢や将来の希望に応じて必要なワークキャリアを段階的に積み重ねることができるよう職員で共通認識を図り、年間の計画を設定した。

2 将来を見据えた進路指導と学びの履歴

(1) 進路学習指導内容表の作成と改善

令和3年度から全学部で学年進行による進路学習指導内容表を作成している。進路指導と進路学習の内容をまとめ、秋田県教育委員会が作成した「特別支援学校における進路指導ガイド（第10版）」を参考に項目分けした。取組を可視化して比較し、検証することが役割の一つだが、取組を記録して引き継ぐツールとして活用したいと考えている。各学部の内容を一覧にした様式1と学校全体の取組を1枚にまとめた様式2、学年の各年度の取組を記録して引継ぎ資料とする様式3を作成している。

図1 「しらかみの恵みを生かした学習活動」概要（キャリア教育全体計画より一部抜粋）

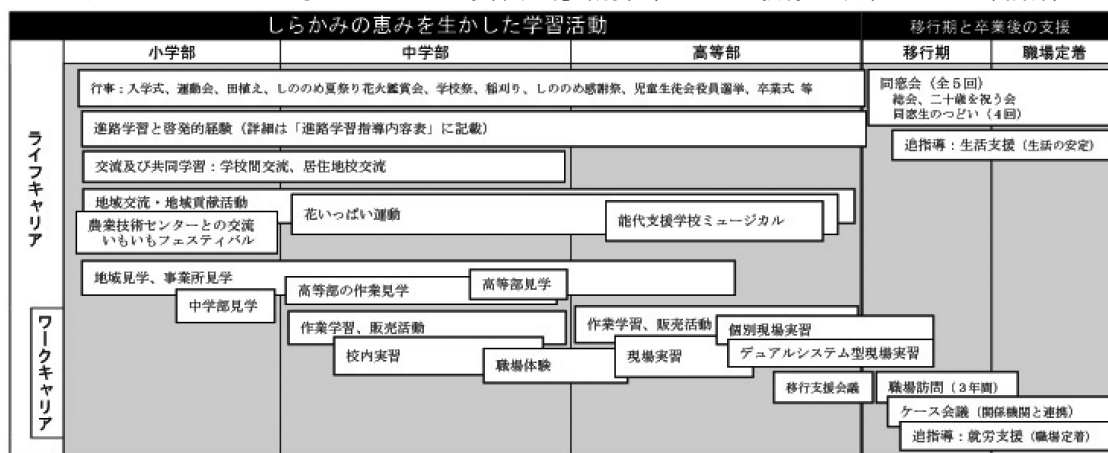


図2 進路学習指導内容表（様式1-3 高等部）

	1年生	2年生	3年生
重点	・自己理解 ・働くことの意義	・課題の認識と目標の具体化 ・社会生活、就労生活に向けた気持ちと行動の準備（権利と責任）	・進路先の決定 ・社会生活への移行と適応
主な取組（前期）	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④】 ・職業科【①②③④】 ・総合的な探究の時間【①】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「身だしなみ」【①⑤】 ・生活単元学習「学年開き」【①⑤】 ・特別活動「給食に向けて」【①⑤】 ・特別活動「高等部のきまり」【①⑤】 ・委員会【①⑤】 ・数学「時間と時刻」【⑤】	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④】 ・職業科【①②③④⑤⑦】 ・福祉科【①③⑤⑥⑦】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「挨拶の習慣化」【④⑤】 ・「人とのかわり方」【①④⑤】 ・「心身の健康について」【①④⑤】 ・特別活動「生活を豊かしよう」【③⑥】 ・国語「コミュニケーションスキルを高めよう①」【④⑤】 ・数学「話し言葉と書き言葉」【⑤】 ・「買物しよう」「数と計算」【⑤】	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④⑥】 ・職業科【①②③④⑦】 ・日常生活の指導【①⑤】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「挨拶の習慣を身に付けよう」【①⑤⑥】 ・生活単元学習「進路を満喫しよう！～修学旅行に向けて～」【⑤⑥】 ・特別活動「生活の安全について考えよう①」【⑤⑥】 ・総合的な探究の時間「ミュージカル」【③】 ・手紙の書き方Ⅰ【⑤】 ・国語「電話での話し方」【③】 ・数学「データの読み取り」【⑤】 ・保健「健康と衛生」【③⑤】
主な取組（後期）	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④】 ・職業科【①②③④⑥】 ・家庭科【⑤】 ・総合的な探究の時間【①】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「身だしなみ」【①⑤】 ・生活単元学習「進路の情報誌を作ろう」【②③④⑤】 ・特別活動「委員会」【①⑤】 ・国語「礼状をきこう」【③④】 ・数学「データの活用 表計算」【④⑤】	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④】 ・職業科【①②③④⑥】 ・福祉科【①③⑤⑥⑦】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「人との関わり方」【①④⑤】 ・「清掃」【⑤】 ・生活単元学習「GaoT 稼」【③⑤⑥】 ・特別活動「生活を豊かしよう①」【①⑤】 ・国語「ディベートに挑戦しよう」【④⑤】 ・数学「データの活用 表計算」【④⑤】 ・保健「心と体の健康」【③⑤】	○全校を通して関連する学習（詳細は年間指導計画参照） ・作業学習【①④⑥】 ・職業科【①②③④⑦】 ・日常生活の指導【①⑤】 ○単元や題材 ・日常生活の指導「隅々を意識した清掃」【⑤】 ・生活単元学習「進路を満喫しよう！～店舗販売に向けて～」【⑤⑥⑦】 ・特別活動「生活の安全について考えよう②」【⑤⑥】 ・総合的な探究の時間「高等部ミュージカル」【③⑦】 ・手紙の書き方Ⅱ【⑤】 ・国語「劇画」【⑤】 ・数学「心と体の健康」【③⑤】
【日常的な学習活動における啓発的経験】 毎日の取組や授業の生活につながる学習機会	【習慣】・挨拶、返事、言葉遣い、報告・連絡・相談 【規律】・食事のマナー 【行動】・清掃、整理整頓、集団行動 【衛生】・感染症対策、身だしなみ	【習慣】・挨拶、話を聞く態度 【規律】・時間厳守、規則 【行動】・整理整頓 【衛生】・感染症対策、衣服の調節、整容、心身の健康状態の把握 【感情】・気持ちの切り替え	【習慣】・場面に応じた挨拶、返事、話の聞き方／話し方 【規律】・公の場での言動、世の中ルールとマナー 【行動】・清掃の仕方、報告・連絡・相談 【衛生】・感染症対策、衣服の調節、整容、心身の健康状態の把握 【感情】・感情のコントロール

3 職業観・勤労観の育成を目指した取組

（1）早期からの進路学習と中学部からの職業教育
将来の生活を見据えての職業観や勤労観の育成には、職業準備性ピラミッドに表されるようなしっかりとした土台づくり（生活基盤と勤労のバランスが取れている状態）が必要であると考え、本校では、早期（小学部）からの進路学習と中学部段階からの職業教育に取り組んでいる。

①小学部の取組

- ・あいさつの習慣や言葉遣い、身近な係活動における役割、身近な人との関わり、決まりの遵守など、確実に身に付けたいことを職員間で共有し、一貫した進路指導を行う。

②中学部の取組

- ・知識・技能の習得だけでなく、实际的で体験的な学習による経験の拡大を図る。
- ・「暮らす」「働く」「楽しむ」のバランスを考慮して年間指導計画を構成する。
- ・進路学習に関連付けて校内実習（前期5日間、後期10日間）を実施する。
- ・中学部3年生は段階的な経験の拡大を目的とした職場体験実習を実施する。
- ・取組や授業の改善に向けた学部職員による職業教育検討会（年3回）を実施する。

③高等部の取組

- ・实际的で体験的な学習により理解を深め、正しい知識・技能の習得を図る。
- ・教科に「職業」と「福祉」を設定する。「職業」は全員を対象とし、「福祉」は介護の仕事に興味や関心のある希望者のうち、選考により決定した2年生を対象とする。

図3 進路学習指導内容表の記載内容

- ①関連する学習について
（作業学習、職業科、福祉科 など）
- ②各教科等の授業について
（単元名、題材名、主な内容 など）
- ③日常的な学習活動における啓発的経験
（主な学習機会について）

- ・各教科等の年間指導計画から抜粋して作成
- ・年間指導計画の評価時期に併せて見直し

- ・学年に応じた校内実習やインターンシップ（職場体験）、現場実習を段階的に設定し、進路相談を踏まえて実施する。
- ・高等部2年生や3年生における具体的な雇用相談や利用相談の段階では、円滑な移行に向けた個別実習やデュアルシステム型実習を実施する。
- ・取組や授業の改善に向けた学部職員による職業教育検討会（年3回）を実施する。

（2）進路相談の充実に向けた情報の収集と活用

- ①全校児童生徒を対象に進路希望や進路活動についての調査を毎年実施している。回答結果を取りまとめ、グラフ化、数値化して推移や傾向をまとめて職員間で情報共有する。
- ②進路活動に関係する制度や地域の情報、本校の取組や手続きの流れなどをまとめた「進路の手引き」を作成し、職員、保護者全員に配付して進路面談に活用する。
- ③実習評価のグラフ化
実習評価票（実習事業所による実習生の評価）の評価項目の数値をレーダーチャートにして可視化し、学習内容の工夫、適性やマッチングを考える際の参考資料として使用する。

4 就労支援と定着支援

（1）職場定着対策会議（年2回）

秋田県「特別支援学校就労・職場定着促進事業」に関連し、職場定着対策会議の名称で、卒業生の職場定着や生活の安定、それに向けた在学中の学習について、地域の企業、関係機関、近隣の中学校と意見交換を行う会議を開催している。雇用状況や定着状況の情報を得るだけでなく、地域との新たな連携構築のきっかけになるなど、今後も継続して実施していきたい取組である。

（2）関係機関との連携強化

令和4年度から、関係機関の連携体制を強化することを目的に、公共職業安定所と、障害者就業・生活支援センターのそれぞれと情報交換の機会を毎月設けている。

（3）職場訪問と追指導

高等部卒業後3年間にわたって、就労先への定期的な職場訪問を実施している。いずれは関係機関が主導となり支援していくことを見据え、移行期の支援を関係機関と連携して行い、学校の定期的な職場訪問の際もケースに応じた連携や役割分担をして実施している。その他の追指導には卒業後の年数に限りを超えて実施しており、相談の最初の窓口が学校又は関係機関のいずれであっても情報を共有し、事案や相談内容に対する適切な対応方法を相談した上で実施している。

III 成果と今後の課題

1 成果

- ・将来を見据えた職業教育が位置付けられた系統性のある教育課程の編成に向けて、開校から現在までに積み上げてきたもの、意味合いが曖昧になっているもの、学部によって取組や認識が異なっているものなどを、俯瞰的な視点により整理し直した。その中で、自立と社会参加に向けて必要な力や、そのために在学期間の最長12年間で育む力と、各学部段階の学習活動についての職員の共通認識の下、各授業の年間指導計画の作成と改善に取り組むことができた。
- ・実践する中で作成し各資料で情報を可視化することで、職員間、または職員と保護者の情報共有が進み、進路相談が充実してきた。可視化した情報を進路相談に活用することで、課題把握や将来像の実現に向けた今現在の学習についての具体的な相談が行えるようになってきている。
- ・職場定着対策会議では、卒業生の職場定着と、本校の職業教育をテーマに取り上げている。離職事例や職場定着の好事例などを、企業、関係機関、学校のそれぞれの視点から考え、意見交換することで、将来を見据えた職業教育や就労支援、卒業後のフォローアップについての改善が図られると同時に、会議がきっかけとなり、地域企業による障害理解、地域や関係機関と学校の新たな関係構築などにもつながっている。

2 今後の課題

- ・本実践の長期的な継続のためには、将来の児童生徒の目指す姿や期待する姿についての職員の共通認識が不可欠である。収集した情報の十分な検証と記録を行い、取組を随時評価しながら改善に努め、学校全体の取組として一層の充実を図りたい。
- ・在学中の職業教育と卒業後の職場定着の関連性や支援の効果、結果については短期的に評価できるものではない。そのため、一年一年の取組や事例をもとに仮説を立てながら、現在の取組を改善して在校児童生徒の学習活動に反映させていくようにしたい。
- ・社会への移行期における就労支援や生活支援は一層の充実が必要である。学校と関係機関がばらばらの支援とならないように、地域や関係機関との関係性を深め、連携を図っていきたい。